

第二次多摩市特別支援教育推進計画策定委員意見対応表

※記載してあるページ数については、括弧の無いものは第3回委員会時に提出した原案のページ数、【】付のものは今回配布した計画案のページ数

NO.	計画(案) 該当ページ数	委員からの意見	対応
1	P1「理念」	・都の「基本的な考え方」として「社会に参加・貢献できる人間の育成」とあるが、多摩市の理念にも位置づけするか否か再考する ・理念は原案通りとする。「貢献」という言葉は安易にいれず、この委員会の場で議論された内容は重視し、今後も引き続き検討していただきたい。 ・全体を見ると、人材育成は障害のある子に限らず、共生社会は障害がある方もない方も含めてのことで、教育全体を指しているのかなと思える。そうすると本計画は、障害がある子の社会貢献というテーマではなく、教育の理念としてのものと読み取れるので、その辺を考慮して「理念」を整理してもらいたい。	P19の「達成目標・指標」の「特別支援教育に関する研修について」にある「将来の自立や社会参加に関する研修」は、将来の自立と社会参加に向けたゴール像を目指して、義務教育の段階でこういった力を身につけさせるか、そのための教育をどう行っていくのかという考えの下研修を行い、子どもたちが実践を積み重ねていくことが、やがては貢献に繋がっていくと考え、記載しておりました。 一方、大きく理念を変える必要があるかという点では、これまでの理念でも「地域の一員として生きていく力」や「社会での生きる力」という言葉を入れているので、この中には「貢献」という内容も含まれていると考えております。 そのため、委員会にて議論していただいた通り、「第二次多摩市特別支援教育推進計画(以下、第二次推進計画)」の理念については現行の計画～変更しないものとし、「貢献」という言葉については委員会のなかで議論された内容を含め今後も検討してまいります。
2	P2～「計画策定に至るまでの経過」	・世界や国の動向の記載が難しいように感じる。もう少し平易な文章で、分かり易い内容にできないか。 ・2について、(1)と(2)のボリュームのバランスが悪い。計画策定の経過に詰め込み過ぎているのでこうなっているのではないか。	全体の文章量を見直し、文章内容についても見直しを図りました。 また、専門用語については必要に応じて巻末に「用語集」を作り、巻末に解説があることを文章中に示すこととします。
3	P2～「計画策定に至るまでの経過」	・ICFを解説する際に、「社会モデル」という言葉が入ってもいいのではないか。もう一度原案を見直してもらえれば ・「ICF」については、今夏の悉皆研修内で、小貫先生が示されていた図解が大変分かりやすかった。資料ページなどに入れると理解の助けになると思う。 ・ICFについて、記述する必要があるかどうか再考する。	ICFについては、「『個人の変化』から『社会の変化』が必要とされる」という、当事者以外への働きかけが重要となるという部分については第二次推進計画を実施していくうえで非常に重要な部分であるので記載することとします。 掲載については図解を入れつつ、資料編に入れました。
4	P2～「計画策定に至るまでの経過」(国の動向・都の動向)	・【動向について】国/都/市で、経年の一覧表になっていたら分かりやすいのではないかと思います。 ・「計画策定に至るまでの経過」は、国→都→市の流れになるはずだが、記述内容がバラバラになっているので、整理する必要がある。	本文中での内容について見直しを図り、文章量を減らすことで分かりやすくなるよう工夫いたしました。詳細な世界や国・都の動向については経年の一覧表にし、資料編の【P47】以降に追加いたしました。
5	P2～	この計画にいたるまでの多摩市の動向や変革・流れについては、これまでのこと、今、未来をわかるようにまとめて巻末に資料としてつけた方がよいのではないか。	多摩市の動向については新しく章立てを見直し、成果→課題→今後の方向性という流れで記載いたしました。
6	P3、4～7行目「計画策定に至るまでの経過」	「合理的配慮とは～」の文章、引用であれば枠を付ける	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。

7	P3、下から2行目「計画策定に至るまでの経過」	「定期的に」と記載があるが、定期的にだけではなく、必要に応じてどのように対応するのかについて記述は必要なのか	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
8	P4、3行目「計画策定に至るまでの経過」	「～を踏まえることが必要です。」の部分は、国の動向を示す書き方になっていないので、国の動向を示す記述とする。	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
9	P4、4行目「計画策定に至るまでの経過」	「東京都教育委員会は～」の部分は、都の動向であるので、次の「イ 都の動向」に記述する	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
10	P5、1行目「計画策定に至るまでの経過」	「さらに」は何に対しての「さらに」なのか	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
11	P5、5行目「計画策定に至るまでの経過」	「東京都でいう～」の部分について、東京都以外と東京都は異なっているのか、また、本計画は多摩市の計画であるので、多摩市ではどうなっているのか記述する必要がある。	個別指導計画や学校生活支援シートの作成は東京都以外においても、全国的に推進されておりますが、様式はそれぞれ異なります。多摩市の状況については、【P6】の成果や【P39】に各シートの作成率などを記載しております。
12	P6「計画策定に至るまでの経過」	P6の「学習指導要領総則の解説」と、同じ行の「各教科の解説」という中での「カイセツ」は、違う意味になる。紛らわしいので、意味を整理していただければ。	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
13	P6～P9「計画策定に至るまでの経過」	・「ウ 多摩市の動向」について、文章での記述は必要ないのではないか。もし記述するなら巻末に年表として資料添付する。 ・多摩市の動向の中で、今まで1次計画で取り組んできたこととその成果は、どういう形で整理されているのか。動向の中で少し触れていたが、2章1に少しだけ書いていたりするので、1次計画の成果をどのように捉え、だから2次計画の目的はこうなるんだ、という流れがうまくできていないように思う。	・「計画策定に至るまでの経過」や「第2章 特別支援教育推進の取り組みと今後の計画」に分かれて記載されていた現行の計画における多摩市の取り組みや成果については、新たに「多摩市特別支援教育推進計画の成果と課題」という章を設け、まとめて記載することとしました。ただ第二次推進計画の本文中は文章量を抑える意味で重要な部分のみ抽出して記載し、詳細な取り組みや成果・その評価については巻末の「資料集」にまとめて記載します。
14	P9「ウ 多摩市の動向」	この計画が一般の人向けということであれば、「ユニバーサルデザインの視点」とは、具体的にどういうものかわかるようにした方がよい。ユニバーサルデザインがどういうものなのか、この計画を読んでわかるようになれば、保護者が読んで、先生とも話ができるようになるのではないかなと思う。	用語解説に「ユニバーサルデザイン」について記載いたしました。また、具体例について詳細について知りたい人向けに参考文献も記載いたしました。
15	P9「計画策定の目的」	「図っていく必要があると考えています」の部分については「図っていくことを目的とする」または「～の充実に資する」という記述にすしてはどうか	「図っていきます」という記述にしました。
16	P9、下から1行目	「～各種の事業について取りまとめ、成果と～」の記述は「～各種の事業の成果と」にする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
17	P9～P10	文章を読み直したが、主語が分かりにくい。P10の最後の2行「能力を伸長させることにより、共に生き、育ち、社会に貢献するとともに、共生社会の実現を目指します。」で終わっているが、「…共生社会の実現を目指すような人材を育成します。」とか、目指すのが誰でどこなのか、言葉をもっと明確にしないといけなかなと思うが。	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。

18	P9～P10	計画策定の目的を先に大きく書いて、次になぜそういう目的を設定したか説明する方が良いのかもしれない。(2)計画策定の目的の位置はここではない方が良いと思う。(2)はなくして、目的は先にもってくる。その後、経緯を説明するというやり方もある。	第3回の策定委員会で提出した第二次推進計画の原案においては、「(1)計画策定に至るまでの経過」の文章量が多く、「(2)計画策定の目的」がかなり後半に掲載されておりましたが、(1)の文章量を減らしたことで、(2)の掲載場所を前倒しできたため、掲載順は原案のとおりとしています。掲載の順序については、教育委員会にも諮りながら決定いたします。
19	P10、1行目	「令和3年度から平成7年度までの～」は「令和3年度から令和7年度までの～」とする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
20	P10、2行目	「～を示すものであります」は「～を示すものです」とする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
21	P10、2行目	「今日に至るまでの取り組みの成果を～」は「これまでの成果を～」とする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
22	P10、4行目	「その力を高めるため、それぞれの～」は「『生きる力』を育むために、それぞれの～」とする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
23	P10、10行目	「共に生き、育ち、社会に貢献するとともに、～」は「共に生き、育ち、社会に参加・貢献するとともに、～」とする	「計画策定に至るまでの経過」の内容の見直しの中で、記載を変更しました。
24	P11	図中の文字が切れている	修正いたしました。
25	P12	特別支援教育の領域では計画が5年は長いと思っている。3年でやっている自治体もある。ただ、多摩市の多くの計画は5年ですすめられることが多いとのことなので、そことの整合性もあると思う。 中間評価というか、計画を推進するような会議体を推進委員会という形で、例えば毎年見守る委員会を考える自治体もあるので参考までに検討いただければと思う。	第二次計画については、他の計画と合わせ5年間とさせていただきます。計画期間中は、新たに推進委員会を設置し、進捗状況の把握や評価・見直しを行います。
26	P13	「適切な合理的な配慮の提供を受けながら、～」について、文章が不明瞭	「適切な」については、誤記載でした。内容の見直しの中で、記載を変更しました。
27	P13	「各教科の開設」は「各教科の解説」の誤りではないか	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
28	P13～	【取り組みと今後の計画について】第2回の資料で示されていた、実際の数値やグラフがあるとよいと思います。	巻末の「資料編」にデータやグラフなどを掲載します
29	P13～	【取り組みと今後の計画について】「課題」は、項目ごとに小見出しをつけるか、(1)(2)といった箇条書きになっていると強弱の階層が分かりやすくなるのではないかと思います。また、小見出しと今後の方向性や達成目標・指標との整合性を持たせることで、何についてどのように進めていくのか、探しやすいのではないかと。	多摩市特別支援教育推進計画の成果と今後の課題について、新しく章立てを行い、箇条書きに修正いたしました。「課題」「今後の方向性」「具体的な取り組み」に整合性を持たせました。
30	P13～	【取り組みと今後の計画について】達成目標・指標の表の中、またはその下に、具体的な内容を示してはどうか。	計画の方向性と今後の取り組み内容について、新しく章立てを行い、項目ごとに具体的な内容について記載いたしました。

31	P13、4行目	「教育課程に基づき、～」は「教育課程を適正に実施し、～」にする	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
32	P13、6行目	「～の向上も求められています」の主語はなにか	主語は「各校の特別支援教育の推進を担う教員」でした。内容の見直しの中で、記載を変更しました。
33	P13、12行目	「組織的に行うことができる取組を行ってきました」の主語はなにか	主語は「多摩市教育委員会」でした。その前文から略されており、わかりづらい記載となっております。内容の見直しの中で、記載を変更しました。
35	P14、1行目	「市内全小・中学校の～において、全児童・生徒について作成することができていますが、」は「市内全ての小・中学校の～において作成していますが、」とする	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
36	P14、3～5行目	「手立てを明確に～多い状況にあります。」の文章は意味不明。無いくていいのではないかな。	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
37	P14、7行目	「関係機関と連携したり、障害や認知の～」は「関係機関と連携し、障害や認知の～」とする	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
38	P14、10行目	「教職員のより一層の共通理解が必要です」は「教職員のより一層の共通理解が求められます」とする	内容の見直しの中で、記載を変更しました。
39	P14、下から3行目	「先駆的に取り組んでいる～」の文章からすると、委員名簿を見ることで、先駆的に取り組んでいるかどうか分かるという理解でよいかな	誤解を招く表現で申し訳ありません。「委員ではない＝先駆的に取り組んでいない」という意図の表記ではありません。表現を変更しました。
40	P14	・個別指導計画が100%作られていることはきちんと記載した方がよい。また、個別指導計画や学校生活支援シートの切り口が中心になっているが、障害種別毎の記載は無くても良いのか。知的障害と自閉症・情緒障害では教育課程は全く異なるので、教育の内容をどう充実させていくのか、個別指導計画をどういう観点で重視していくのかも違ってくる。 ・通常学級の方に特別支援教育のことをどれくらい発信していくか、どうしてもそこに壁があるのでここでも特化してしまっているが、特別支援教育全体の推進であることを考えてもう少し見直してもらうのが良い。	「具体的な取り組み」に個別指導計画の作成率が100%であることを明記するとともに、資料編【P39】に特別支援教室と特別支援学級を分けて「市内の公立学校における個別指導計画・学校生活支援シートの作成率」を記載しました。
42	P14「今後の方向性」	特別支援コーディネーターの研修が月1回市主催であり、研修の内容などの情報共有の場は設けられているが、それぞれのケースについて具体的・現実的な部分まではなかなか共有しにくい。そういったことを事例集などで共有できるようになるのは良いと思う。通常の学級で指導をしている全科の教員の助けになるようなものであるということが事例集の意味合いとして盛り込めると、みなさんにも伝わりやすいのかなと思う。	ご意見ありがとうございます。具体的な取り組みを進めていく中で参考にさせていただきます。
43	P14～P15	表記の仕方として、P15を見ると1つ目が校長副校長のリーダーシップ、2つ目が校内委員会の充実となっているので、P14の今後の方向性も同じ順番で整理し、そこに何をしていくか、具体的な取り組みを記載して、P15の達成目標・指標と照らし合わせられるようにした方が見やすいと思う。	「今後の方向性」と「具体的な取り組み」を、項目ごとに分割しました。

44	P15	P15の校長・副校長のリーダーシップについては、「市教委主催の特別支援教育(校長及び副校長研修)の実施」となっているが、これは表記上どうなのかなと思う。また矢印のところに「中学校特別支援教室における校内委員会の役割等について実施」とあるが、この意味がわからない。小学校はやらなくて良いのか?となるが。	「多摩市教育委員会主催の管理職研修の実施」の間違いなので訂正させていただきます。小学校についてはご指摘のとおりで、ここでは、令和3年度から中学校特別支援教室の実施があり、各中学校の研修で求められることは何かと考え、このような記載となっております。「具体的な取り組み」の内容を新規の取り組みに限定し記載する中で、記載内容を変更しました。
45	P15	2つめ校内委員会の充実・特別支援教育コーディネーターの資質向上についての項目では、「優れた取組をする小・中学校の校内委員会の活用について共有」とあるが、これも言いたいことが伝わらない。	文脈上伝わりにくいところがあるので整理しました
46	P15	3つめの個別指導計画・学校生活支援シートの活用の推進については、ざっくりとした内容になっていて、もう少し丁寧に記載をして、それぞれの項目の住み分けをきちんとした方が良い。	項目のすみわけを見直し、項目ごとに①②③と分割して表記を行いました。
47	P15	「達成目標・指標」の中にある実践事例集についての記載も、もう少し丁寧な書き方をお願いしたい。	実践事例集についての説明を追加し、取り組みの進め方に関する記載も見直しました。
48	P15	「達成目標・指標」の「校内委員会の充実・特別支援教育コーディネーターの資質向上について」の中に、「優れた取り組み」と記載されているが、保護者からすると優れた取り組みとは何なのかなと思ってしまう。子どもの困り感を減らしていくような、具体的な言葉にしてほしい。	【P10】の本文中に「児童・生徒の状況に応じた指導・支援の方針」「児童・生徒の長所を伸ばす視点」という単語を追記し、「優れた」という単語の意味を追加しました。表中の「優れた」という表記はそのままになっておりますが、これを「実際に活用されている効果的な取り組み」に変更します。
49	P15など	全ての「達成目標・指標」の項目において、例えば「検討→計画→実施→評価→検証(成果と課題)→改善」あるいは「検討→作成→活用→評価→改善」という流れを入れる	具体的な取り組みの、それぞれの項目の表記内容について見直しました。
50	P16	「ピアティーチャーの効果的な活用に関する効果検証について」の項目内に、検証が入っていない	「具体的な取り組み」の内容を新規の取り組みに限定し記載する中で、記載内容を変更しました。
51	P17	教員研修のことを中心に記載しているので、表題の「外部専門家や特別支援学校センター校機能の活用」はずれているのではないかな。ここで言いたいのは人材育成の話だと思うので、そういう表題にした方が良い。	「具体的な取り組み」のそれぞれの項目について全体を見直し、編成しなおしました。現行の推進計画の成果については資料編に項目別に記載しています。
52	P17	ICT機器の導入もここに記載されているが、これは教育環境の整備なので別の項に移した方が良いのではないかな。ここは人材育成の手段に絞った方が良いと思う。	「具体的な取り組み」のそれぞれの項目について全体を見直し、編成しなおしました。ICT機器に関しては、導入後の効果的な活用に関する研修を行うという意味で、教員の専門性を高める項目の中に入れ込んでおります。
53	P17、4行目～	「例えば、特別支援学級等を～研修を行いました。」部分は文章になっていない。	表記を見直しました。
54	P17、13行目	「相談体制の充実に努めました」とありますが、努めただけに止まったのですね。	現行の推進計画の成果については資料編に項目別に記載しました。
55	P17、下から5行目	「～実態に応じて導入を推進しました」とありますが、パソコンの導入を推進したのでしょうか	ICT機器の導入の推進について記載しております。台数など詳細は【P25】に成果として記載してあります。
56	P17、下から1行目	「活用することにしました」は表現が稚拙	表記を見直しました。

57	P18	「他の研修の機会が無い教員等を対象に」とあるので、「達成目標・指標」の中に「研修の機会が無い教員向けの研修」が明記されているとよいのでは	「具体的な取り組み」の内容を新規の取り組みに限定し記載する中で、記載内容を変更しました。
58	P18、「課題」1行目	「特別支援教室連絡会を導入」とありますが、設置ではなく導入でしょうか	現行の計画の成果についての表記構成を見直す中で、削除いたしました。
59	P18、「課題」4行目	「特別支援教室に関する研修も充実していることを踏まえ、」とあるが、多摩市の計画の文章中に、東京都の研修が充実しているか否かを記述すべきではない	表記を見直しました。
60	P18、「課題」5行目	「教員の過度な負担とならないように」とあるが、本務である研修が負担なのですか	勤務時間との兼ね合いの中で、本務とはいえ多くの時間を研修に割り、学校での実務執行時間に影響が出ることがない範囲で、という意図で記載しておりました。記載内容を見直しました。
61	P18、「課題」5行目	「教員の過度な負担とならないように」という記載は、配慮としては必要だが、計画には記載しない方がよい文言だと思う。例えば、業務全般のバランスを考えながら有効な方法ですすめるとか、もう少し分かるような書き方を。	表記を見直しました。
62	P18、「課題」7行目	「特別支援教育の経験の浅い教員の増加が」という表現は、市民が不安になるので変更したほうが良い	表記を見直しました。
63	P18、「課題」10行目	「ICT機器の導入については、導入が完了しました」とあるが、国の基準が変わった。多摩市はICT導入完了とはなっていないので、国の新たな基準と照らし合わせてください	ここでの記載は多摩市の計画に基づいて「完了」と表記しております。今後は導入した機器の活用を進めていきます。
64	P18、「今後の方向性」2行目	「他の研修の機会が無い教員等を対象に」の部分は表現が意味不明	表記を見直しました。
65	P18	達成目標・指標の「特別支援教育に関する研修について」のところで、「異動者等を対象にした研修」となっているが、転入者とかそういった表記にした方がよい。	表記を見直しました。
66	P19	「専門家チームによる派遣相談(授業相談および巡回相談)について」内の「中学校特別支援教室導入直後の校内委員会の充実を生かす派遣相談」は、令和3年に実施した後評価や改善などは行わないのか	追記しました。
67	P19	P19の表は、何を、いつまでに、どうやるのかをもっと具体的にした方がよい。	それぞれの項目について具体的な内容を追記しました。
68	P20、4行目	「丁寧な就学や転学などの相談を行ってきました」とあるが、「丁寧ではない」と思っている保護者は一人もいないのか。傲りのある表現だと思われるか。	相談方法や相談過程、相談者への伝え方などについて、相談者にとって何が最善かを相談員や職員は常に考え、見直しを行いながら相談業務を行っており、それを「丁寧」という言葉で表現しておりました。表記については見直しました。
69	P20、9行目	P20の三段落目、転学はこれ以外にも特別支援学級から通常へ転学するケースもあるので、それを含めた書き方がよいと思う。	【P16】に記載の「就学相談実務」のように、限定的な記載方法を修正しました。
70	P20、下から1行目	「きめ細やかな」は「きめ細かな」とする	修正しました。(【P16】に1か所修正できていない部分があるので、修正いたします。)
71	P21、1行目など	「～必要があります」「～ことも必要になります」「～ことが求められます」という表現が連続すると、逃げてるように思われるかもしれない。根拠に基づいた課題の提示をする。	それぞれの課題に根拠を示すとともに、資料編として数値データを掲載しました。

72	P21、2行目	「特別支援教室利用者の増加に対して、指導の必要性と、指導終了に対する適切な判定を行っていくことが求められます」という書き方だと、ぱっと見ただけだと、利用者が増えると終了になって出される子どもどんどん増えてしまうのかなと、懸念されてしまうかもしれない。	表記を見直しました。
73	P21、6行目など	「障害のある人となない人」という表現について、市民感情に配慮すること。	計画の主旨に基づき、記載個所を見直しました。
74	P21	達成目標・指標の「教職員経験者の所員と公認心理師相談員の専門性を活かした体制整備」での実施の矢印は何をするのかが分からないので、もう少し具体的にされた方が、保護者の方もわかりやすいのでは。	【P17】の項目を見直し、「相談件数増加への対応」の中で具体的な方法について記載しました。
75	P21	相談件数の推移は資料として記載するのか？	【P37】以降の成果の中に記載しました。
76	P21、6行目	共生社会に向けて、障害のない子どもへの理解推進の教育について、もう少し触れてもらえると良い。障害のある子どもへの教育だけではなくて、障害のない子も含めて共生社会をどう作っていくかに対するアプローチの仕方に言及した方が良いと思う。	【P18】に、地域全体への啓発事業として記載しました。
77	P22	感じ方は人それぞれ違うとは思いますが、例えば「特別支援教室の利用・終了判定」というのが、終了という言葉なども、少しきついかないという気もする。	判定の名前自体は固有名詞であるので、「項目」の表内での表記についてはそのままになっておりますが、文中では表記を行わないよう表記を見直しました。
78	P22	「達成目標・指標」内がすべて同じ文言になっており、意味がない	表記を見直し、それぞれより具体的な内容に記載内容を変更しました。
79	P23、5行目	「活用実績」という文言は、より柔らかい表現に変える	表記を見直し、「活用実績」という文言を削除しました。
80	P23、6行目	「また、」という単語が接続になっていない	表記を見直しました。
81	P23、11行目	「特別支援学校との連携も進め、」の文頭に、「都立」を入れるかどうか検討してください	【P31】に未修正箇所があるので修正いたします。
82	P23、18行目	「より適切かつ相談者に寄り添った相談を行ってきました」とあるが、寄り添ってくれなかったという思いを抱いている多摩市民はいないということではないでしょうか。表現に傲りがあると捉えられるかもしれません。	「丁寧」と同様、表記を見直し、実績として「寄り添った相談」という表記を使わないようにしました。
83	P24	・相談窓口の一本化は、発達支援室だけのことか。教育センターなら教育相談もあるし、子育て総合センターでも発達の課題のケースを扱っていると思うが。案内する側としては、どこにつなげばいいか分からなくて困ることがあるので、一本化されると助かる。 ・母子保健との連携(健康センターなど)も、将来的にはできるとよいと思います。 ・相談窓口の一本化について、子育て・福祉部門との連携と書いているので、是非、大きな枠を見据えながら、まずはやれることからやって理想に近づけていくというような記載をしてほしい。	子育て総合センターとの相談窓口の一本化に関しては、相談種別が異なることから、今回の相談窓口の一本化には盛り込んでおりません。しかし、子育て総合センターで扱ったケースで発達の課題が分かたらすぐに連携をとるなど、子育て総合センターや健康センターとの連携については今後も図ってまいります。

84	P24、2・7・10 行目	「求められます」「求められています」「求められます」と同じ表現が続くので、「求められていることは以下の3つです」という記述にできないか	表記を見直しました。
85	P24、「今後の 方向性」7行 目	「より多くの人に理解してもらうための」という部分は「より多くの方の理解を図るための」という表現にしてはどうか	【P18】に未修正箇所があるので修正いたします。
87	P25「達成目 標・指標」	表内に具体的な表現がないため、結局課題を連ねてもなにもやらない、と読み取られてしまう可能性があるのではないか	具体的な取り組みの表内の記載内容について、具体的なものとなるよう表記を見直しました。
88	P26「達成目 標・指標」	「状況の変化に合わせ充実実施」という表現は、行政の文章としてはいかがなものかと思う	表記を見直しました。
89	第2章全体	「達成目標・指標」の項目内は、文章が長いので、もう少し箇条書きにした方が読みやすいと思う	各項目の文章が長くないよう見直しました。
90	全体	「第2次」「第二次」など、計画の名前について文中で漢字遣いが統一されていない	「第二次多摩市特別支援教育推進計画」で統一いたしました。
91	全体	「特別支援教育コーディネーター」で表記を統一する	ご指摘の通り修正いたしました。
92	全体	「取り組み」「取組」の表記を統一する	固有名詞や引用以外は「取り組み」で統一いたしました。
93	全体	文法・表記・表現等、文章の推敲の必要がある	全体の表記について、見直しを行いました。
94	全体	「障害」と「障がい」の使い方を統一する	固有名詞や引用以外は多摩市の運用ルールをもとに使用いたします。
95	全体	「中」と「なか」の使い方を統一する	「中」で統一しました。
96	全体	章立て自体に少し疑問があり、もう少し順序だてた上手な説明の仕方があるのではないかと思います。	内容を整理し、章立てを変更いたしました。順序については教育委員会にもご意見をいただき、決定いたします。
97	全体	もう少し情報を知りたいとなった時に、何か追加情報を確認できるような書き方はできないか。ここに全ての情報を記述すると膨大な量になるので情報を絞る必要はあるが、絞りすぎると内容がよく分からなくなるので、丁寧な書き方を検討してもらいたい。	詳細な情報については「資料編」に記載し、追加情報についてリンクを紹介するなど、情報の記載場所や分量などについて修正いたしました。
98	全体	章立ての構成について、1章には1次計画の成果、国・都の動向、2章に本計画の概要、理念、目的、計画の位置づけや期間など、3章に具体的な取り組みを記載していく流れの方が読みやすいのではないかと思います。	内容を整理し、章立てを変更いたしました。順序については教育委員会にもご意見をいただき、決定いたします。
99	全体	保護者がみても、教員がみても、特別支援コーディネーターがみても、管理職がみても、困り感がある児童生徒が良くなっていくことに繋がっていくような記載が必要では。例えば、P22の「学校への助言・支援業務」は、令和3、4年度で実施、令和5年度に検証・見直しとなっているが、何をしていくか、もっと具体的に、箇条書きでも良いので記載した方がわかりやすいのではないか。	具体的な取り組みの各項目について、計画の推進工程についてより具体的な表記となるよう全体を見直しました。

100	全体	この計画を読めば多摩市が何をやっているかわかるということが重要で、専門家からすると特別支援教育コーディネーターというとはっと分かるが、まったく学校と関係性がない人には分からないと思う。できるだけ分量を減らして分かり易くするとともに、専門の言葉はきちんとどこかで説明がされるように、情報の置き場の整理も含めて、読んだときに分かるようにしてもらいたい。	専門用語など、解説が必要な用語については、巻末の「用語集」に記載し、解説いたします。
101	多摩市障がい者差別解消条例(案)の記載について	「障害のない」とは誰が決めることなのか。障害のない、障害のあるという言い方はすごく難しい言葉だと思う。計画の理念の中にその言葉が入るのは、当事者がつらい思いをするのではないか。	「多摩市障がい者差別解消条例(案)」については、章立てとして記載することは行わないこととします。計画内での言葉の使い方については、本計画の主旨を踏まえて使用している個所もありますが、表現を見直せる部分については見直しを行いました。